



じゃがいもずきん「ききぼう」くん

# 防災ワンポイント 第56回 家具の固定について

地震による怪我を防ぐためには、『姿勢を低くし頭を守る』という基本行動のほかに、家具の移動などによる怪我を抑えることが重要になります。倒れて壊れたり、倒れた家具によって怪我をすることがないように、あらかじめ家具を固定するようにしましょう。



ダイニングテーブルも粘着マットなどで固定しないと動いてしまいます。

## ●家具の固定

阪神淡路大震災で怪我をされた人のうち、およそ半分もの人が家具の転倒・落下が原因で怪我をしているという調査結果があります。

大きな地震が発生した場合、冷蔵庫が移動する・テレビや電子レンジが飛ぶ、などの日常では考えられない現象が発生するほか、怪我で動けなくなる・倒れた家具が避難路をふさぐ、といった速やかな避難ができない状態になると、火災が発生した場合に逃げ遅れる原因にもなります。

このような被害を防ぐためには、日ごろからの備えが不可欠です。以下を参考に、必ず家具を固定しましょう。

地震で家具はどうなる？	どんな家具が対象？	どんな対策が必要？
「うごく」	テーブル・テレビ台など	耐震粘着マットなどで固定。
	コピー機・ピアノなど	アジャスターやベルトなどで固定。
「とぶ」	食器棚・キャビネット類・書庫など	引き戸や引き出しに飛び出し防止のラッチを付ける。中には飛び出し防止の滑り止め防止布を敷く。
	PC類・レンジ・テレビなど	耐震粘着マットやベルトなどで固定する。
「たおれる」	タンス・食器棚・冷蔵庫など	L字金具での壁固定。柱など丈夫な部分に固定する。
	キャビネットなど	平金具で連結する。
「おちる」	照明・額など	チェーンなどで天井固定。強い力がかかるので固定する場所の強度が重要。
「われる」	ガラス戸棚・ガラス窓など	飛散防止フィルムを貼る。

賃貸住宅など、家具を壁に固定することが難しい場合は、家具を壁側に傾けるストッパーや突っ張り棒タイプのグッズを複数組み合わせることで対応しましょう（グッズ単独では効果が小さくなります）。寝室や避難路となる箇所の家具の配置を見直し、重いものは下に収納するなど、家具の重心を下げるよう心がけましょう。

詳しくは、総務課 防災係まで。

## くらしの知っ得ガイド

役場内に「消費生活センター」があることをご存じですか？

昨今、商品やサービスの多様化に伴って、悪質な訪問販売や勧誘行為、契約や取引に関するトラブル・多重債務など、消費生活に関する様々な問題が多発しています。

「消費生活センター」では、それらの不安や苦情、被害などについて相談を受け、内容に応じて**問題解決のための助言や情報提供、あっせん**を行っています。

### ●相談例●

- ・身に覚えのない総合消費料金未納等のハガキが送られてきた
- ・健康食品等の勧誘電話がしつこくかかってくる
- ・インターネットサイトをクリックしたら請求画面があらわれた
- ・訪問販売で布団などを高く買わされた など



『ひとりで悩まずにまずは相談を！』

相談は、中標津町消費生活センター（役場 生活課内）まで。